

「工場」とは、工夫する場所
の心

——技術畑の社長と、営業・管理畑出身の工場長。コンビネーションはいかがですか。

橋本…私は前の会社を辞めて1年ほど技術学校の金型科で勉強しました。あとは入社してから現場を経験した程度です。機械を使って何が出来るのか、やすり一本でこれができるのかというキャリアがない。だから私の役割は、技術畑の社長とは違った目線で仕事や事業を見ていくことだと思っています。社長は現場をよく知っており、モノづくりに対する考え方や姿勢はとも見習うべきところが多いのですが、技術に嘯んでこなかった私とは感覚的にずれが生じることもあります。でも、それは理解できないところをキャッチボールすれば分かること。お互いの思っていることを投げ合えばいいんじゃないかと思っています。

例えば人の育て方にしても、昔は「オレの腕を見て盗め」という調子でよかったです。でも、いまはそれじゃ若

工夫次第で C級の仕事は B級になり、 B級の仕事は A級になる



本誌としては珍しい営業・管理畑出身の工場長へのインタビュー。技術畑出身の社長とは違った目線で経営を担っていきたいと語る橋本靖久は「元気のいい工場」、「信頼関係を大事にするマネジメント」を目標に将来は自社ブランド製品も立ち上げたいと夢を語ってくれた。



橋本精密工業 取締役工場長
橋本 靖久
はしもと やすひさ

社員はついて来ません。段階ごとに目標をつくってあげて、それに達するためにこれをやるんだとか、細かく説明しなければ動かない。そういうギャップを埋めるのが自分の役目だと思っています。

——会社の社是は「創意工夫」とか。橋本…工場長になると、社長から言われたことがある。工場という言葉は、もともと「工夫する場所」という意味なんだと。どんな仕事でも期待値を高く持てば、C級の仕事でもB級にも、A級にも上げられるんだと。最近では製造業も中国などアジア圏から追い上げがありますが、この初心を積み重ねていくことが大事なんだということですね。もう一つ見習わなければならないのは、「もったいない」という心。社長は面白い

Profile 橋本 靖久 (はしもと やすひさ)
1970年、東京都生まれ。3人兄弟の長男として、1階が工場、2階が自宅という環境で育つ。専門学校卒業後、商社勤務を経て父の経営する橋本精密工業(株)入社。2002年、茨城工場長に就任。営業出身の工場長として「元気のいい工場」をめざす。「茨城モノづくり未来研究会」にも参加するなど勉強家の一面もある。都内の自宅から愛車チェロキで茨城工場まで1時間かけて通っている。

ことに、何千万円かけて導入した機械よりも、1万円の部品について厳しく言う。丁寧に扱えとか、使い方を考えろとか。
1976年でしたか、多額の借金をしてワイヤーカット放電加工機を導入したことがありました。これが当社の転機になったんですが、それまでの初歩的な機械とは天と地の違い。このときだって、社運をかけて最新の機械を買ったわりには決断が早かった。逆に細かいものを購入するときなどは時間をたっぷりかけて考えるような…。モノづくりの心のようなものを感じますね。

みんなで決めた 中国への工場進出

——2002年12月に茨城工場長に就任。中国・深圳の沙井工場設立と同じ時期ですね。

橋本…ええ、前任の工場長が中国の工場に赴任したので、その後任ということですね。実は、中国への進出を考えたのは当社にとって2度目なんです。1度目は10年ほど前。このときは1ドル170円台までレートが落ちました。もう日本ではやっていけないぞ、と。そこで中国への工場移転を準備する直前までいきました。ところがその後、円レートが急速に戻って110円になった。それで止めておこうと(笑)。2度目が4、5年前。このときは結局2002年に進出をはたしたわけですが、これには私も少々関わりました。

きっかけは、中国の華南地区に工場を持つ大手の取引先から「来ないか」と声がかかったこと。マイクロモーターを製作している会社ですが、近くで仕事をすればお互い効率かと思っています。

技術系出身でないというキャリアの特長も生かしていきたいですね。

橋本…自分で言うのもナンですが、私はわりと話しやすいタイプなのですが、海外で道を聞かれることもあるし(笑)。マネジメント面では、そういうキャラクターをうまく生かして、ひとり一人の持ち味を引き出していきたい。

※QDC
生産活動の3要素である
[Quality:品質、
Delivery:納期、
Cost:コスト]を
略したもの。

自分で言うのもナンですが、
私はわりと話しやすいタイプのようなんですね。
海外で道を聞かれることもあるし(笑)。
マネジメント面では
そういうキャラクターをうまく生かして、
ひとり一人の持ち味を引き出していきたい。

的じゃないかというわけです。社長がみんなに聞いてみたら、「やりましょう!」、「行きましょう!」という声が圧倒的で、慎重な社長もその気になった。海外に行くと、現地でいろいろ吸収できるのは魅力でしたからね。

ベストサプライヤーであり、 ブランドメーカーであり

——近いうちに次期社長ということですが、どんな夢を描いていますか。橋本…そうですね。まず基本はQDCを念頭に置いた製品づくりということ。ウチの強みは小回りがきくところですから、例えば夕方、お客さんが見えて「明日の朝までにできないか」という注文にも対応できる。先日も、取引先から「QDCベストサプライヤー賞」ということで表彰していただきました。Qのクオリティにも自信があります。このQDCをベースに、いずれは自社ブランドを立ち上げ、パーツメーカーからの脱皮も準備していきたい。



1. 従業員の約4割が女性 2. 様々な分野の精度の高いプレス部品 3. 敷地面積7960㎡の茨城工場 4. 精密部品を支えるのは検査機器と人の目

The Management Data File
経営者データファイル

お名前	橋本 靖久	乗っている車	クライスラー・チェロキ
生年月日	1970年5月4日 東京都生まれ	今までに訪れた国	8カ国
身長	178cm	座右の銘	創意工夫
体重	0.1t	購読雑誌	日経ビジネス、日経ものづくり
平均睡眠時間	6時間	尊敬する人	両親
平均起床時間	午前5時55分	今日の財布の中身	5万5000円
趣味	スポーツ観戦 (とくに野球、サッカー)	好きな食べ物	なんでも
		嫌いな食べ物	なし

会社概要 橋本精密工業株式会社

本社所在地 ● 東京都葛飾区立石5-5-3
創業 ● 1935年(昭和10年)1月 資本金 ● 3,000万円
設立 ● 1970年(昭和45年)2月
事業内容 ● 電気接点部品、複合カシメプレス部品、精密薄板パネ部品、精密順送プレス金型製作

従業員数 ● 60名(男性35名・女性25名)
関連工場 ● 茨城工場
関連企業 ● 沙井橋本精密廠
(中国・深圳市)
URL ● <http://www.hskcoltd.co.jp>

就職情報は
コチラ